

# Book Review

## フラップ手術のすすめ

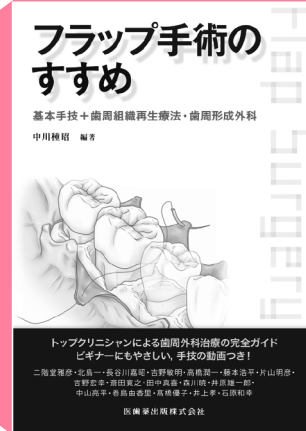
中川種昭 編著



Reviewer

牧野 明 Akira Makino  
(富山県・まきの歯科医院)

A4判、オールカラー、  
232頁  
定価(本体7,200円+税)  
医歯薬出版刊



編者がこの本で世に問いたいことは、天然歯保存へのこだわりなのだろう。

歯周病の大半は精度の高い歯周基本治療と、ここぞという場面での切り札としての歯周外科、そして継続的なメンテナンスでコントロールが可能なはずである。歯周外科はもちろんテクニックであるが、そのテクニックを一連の歯周治療のなかでどう位置づけるのかも重要なのである。

本書は大きく分けて2つのパートから構成されている。すなわち、歯周外科を行う前に押さえておくべき基本を網羅したSection 0~1、そして一歩越えたアドバンスな内容としてのSection 2~6である。

内容を紐解いてみる。

【Section 0】歯周外科に臨む前に十分理解しておかなければならない知識、診断、準備、ステップの章。いきなり歯周外科ではなく「確実な歯周基本治療で十分な環境を整えた後に歯周外科を」と説かれている点に共感を覚

える。

【Section 1】誰にでも初めての一症例があるのは当然である。ビギナーズが歯周外科に臨む前に押さえておかなければならないこと、院内の準備等を詳細に解説している。実際の器具や症例写真も交えることでより具体的に理解ができる。ぜひ確認しておきたい。

ここまでの基礎知識を本書の約半分のページを費やして詳細に網羅されていることが、基本を大事に忠実にという姿勢の現れなのだろう。

【Section 2~4】近年の新技术と言える歯周組織再生療法、歯周形成外科等についての考え方や適応の勘所をその分野のエキスパートがケースプレゼンテーションのかたちで展開する。各術者それぞれの症例の見方、評価の仕方も興味深い。共通していることは(当然ながら)プラークコントロール、歯周基本治療、メンテナンスが鍵、と強調する姿勢であろう。

【Section 5】歯周治療のなかで最後の未解決なテーマとしての根分岐部病変。各症例に正解は一つではないはずだが、その診断と期待する治療像に向けての考え方が問われる。座談会形式にすることで各術者の考え方がよく理解できた。読者の技術の熟練度により処置方針を選択するべきだろう。

【Section 6】ありがちな落とし穴を、Q & Aのかたちで解説。これは読者にやさしい。

おまけに各章には手技の動画までついでいて、初めての歯周外科に臨む前のイメージトレーニングとして、また自分の手術との比較材料として何度でも眺めてみる事ができる。

初めて歯周外科を経験するビギナーの歯科医のみならず、ベテランも本著を手許において読み返し反芻したい待望の1冊。

広い世代の読者に推薦したい。